

(トラック①)

(中・遠・静寂のノック)
コンコン…

ふふっ、入っていいわよ？

(中・中・冷ややかに)

あなたが面接希望の子ね。

ふーん、見た目はそこそこ。

……ほら、履歴書、出して。

(書類をめくる音・ペンのカチツ)
ふむ……あら、ニート？

しかも前の会社は、一日で退職。
はは……笑っちゃうわね。

(クスクス笑い・吐息混じり)
大学もワラン卒で、
資格欄は空欄。

普通免許すら持っていない。

……ほんと、何もないのね。

(低く囁く)
ゴミ雑魚履歴書で、ふふっ、
バイトすらなかなか受からなくて、
もう他に行くところがない——

可哀想な底辺雑魚。

(中・中・↓左・近・ヒール音が近づく)
でもね……いいのよ？
そんな社会のゴミでも、
“私たち”は拾ってあげるの。

（中・近・微笑交じりに）

そう——悪の組織。

我々、《マッドサイエンティスト》ならね。

社会が見捨てたクズでも、

私の手の中では“使い道”がある。

それを光栄だと思いたくない、ね？

（中・中高々に）

あなたたち

——新たなバイト構成員に、求めるものはただ二つ。

“服従”と“忠義心”。

この二つさえ持っていれば、
どんな人間でも構わない。

クズでも、

無職でも、落ちこぼれでも

——快く受け入れてあげる。

（少し間）

さあ、私たちと一緒にやりましょう。

あなたを拒んできたこの社会を、

そして、この世界そのものを——壊すの。

（ゆっくりと）

私は、

悪の組織《マッドサイエンティスト》の

女幹部、

紅蓮のマリス。

（低く、近く）

幹部であり

……この店舗の店長でもあるわ、ふふっ。

もしこの面接に受ければ、
あなたの直属の上司になるの。

ふふっ、どうしたの？

その震えた肩、

緊張しているのが丸わかりよ？

(うれしそうに)

いいわ——その怯えた目、たまらない。

私の“趣味”に、ぴったりだわ。

(中・近)

そう、私の趣味はね——マゾ男を躰けて、
痛めつけて、壊すこと。

社会の底辺で

腐っているゴミみたいな男を、

自分の手で、

快楽と痛みで徹底的にしつけていく。

その瞬間が

——だーい好きなの。

(低く囁く)

ふふっ、こんな私に、

本当に……ついて来れるのかしら。

(ぞくぞくする声で)

そう…

いいこね

(中・近)

じゃあ——いいわ。

(ゆっくり命令)

服を脱ぎなさい。せんぷ。

……ん？

あら、聞こえなかったの？

“全部脱げ”って言ったのだけど、
理解できなかったかしら？

（わずかに間）

ふふっ……その顔、いいわね。

目を泳がせて、頬を震わせて。

どうしていいかわからず、

息を詰めてる。

——まさに、玩具としては理想的ね。

（軽くビンタ音）

ほーら、

こうすれば動けるでしょ？

えい！

（中・近）

ふふーん

……頬に赤い跡が浮かんてる。

涙が溜まって、光って……かわいいわ。

（声を低く）

二度は言わない。

この面接の採用条件

——それは“服従”と“忠誠”。

命令を拒むなら、

今すぐ回れ右して帰りなさい。

そのまま、今までみたいに。

何もできず、誰にも選ばれず、

社会の底で、ゴミみたいに転がっていればいいのよ？

(中・中)

……ふふっ、あーあ。脱いでる脱いでる。

震える指でボタンを一つずつ外して。

汗で布が肌に貼りついて、

離れるたびに“ぺたっ”と音がする。

その怯えた手つきで、

それでも急いで脱ごうとしてる。

任務を遂行しようとする姿勢

——悪くないわね。

(舐め廻すように)

いい子。

最初から下着まで、

何の迷いもなく脱げる子なんて滅多にいないのに。

大抵はね、パンツ一枚だけ残して、

“これも脱ぐんですか……”って困った顔を浮かべるの。

でもあなたは違う。

ちゃんと理解したのね——命令は、絶対。

服を脱げと言われたら、

全部脱ぐ。

従順。それは悪徳じゃないわ。

むしろ

——この組織では最高の資質よ。

(やや近く)

ふふっ、ほら、もっと見せて。

(中・近)

(挑発的に、少し低めのトーンで)
それで？ ふふっ。

(わざと間を空けて)

この貧相な体にぶら下がっている

……ふふっ、あなたの一物……

興奮と恥辱で、ピクピクしているわね。

(観察するように、息を含ませて)

ほーら、

私が入差し指で……ゆっくり触ってあげる。

(テンポを落として)

質問に答えなさい？

自慰の頻度は？

(嘲るように)

ふーん、一日三回、ふふっ。

働くことも出来なくて、

社会の底辺ニートだからって、

オナニーの回数だけは立派ね。

(軽く笑って、近づく)

ほーら、

ぶら下がっているだけの——下を向いている竿。

入差し指でさーわさわしてー、ふふっ。

(ささややくように)

ねえ？

この子、童貞なのかしら？

一度も経験のない……オナニーしか知らない、くず肉なのかしら。

あらあら、ふふっ、予想通りね。

セックスはおろか、彼女もいたことない。

童貞の負け組。

（淡々と告げて、間を置く）

自分では手に入らないものを、
噛みしめて、妄想して。

情けない手でシコシコしかできない

……社会の底辺。ふふっ。

（やや距離を詰めて）

それで？

こんな悔しい事言われて…

この皮被りの子は、

なんで、だんだん上を向いて、
興奮してきてるのかしら。

（中・近）

そう、

私のこのでっかいパイオツと、

ふふっ、半乳放り出てる

エロい衣装に興奮して、

勃起をってしまったのね。

これから上司になるかもしれない

人間の体に…

欲情して勃起なんて

（叩く）

——ほーら、謝りな、さっっ。

ふふっ、あらあら。

おちんぼ竿に

ビンタをもらったら、

「ありがとっ（ぎんます）」なんて…

ふふっ、

なかなか見どころがあるオスじゃない。

そうよ

私があなたにしてあげる痛みは、

すべてあなたの快樂の報酬となるの。

私にされたことは、

どんなことであっても、

ふふっ、あなたにとっては喜びなのよ。

ほーら、

それじゃあ、オナニーしてみなさい。

あなたが唯一できることなんて、

ふふっ、オナニーしか無いでしょ？

だったらこの女幹部の私の前で、

その粗チンを握り締めて

——ゴシゴシ、オナニーをしてごらんなさい。

(低い声で)

ほら、逃げるな、早くやれ。

あーらあら、ふふっ。

半立ちおちんぼを握り締めて、

ゴーし、ゴーし、ゴーし。

ふふっ、

あらあら恥ずかしいわね。

たどたどしい手つきなのに、

コキ方は慣れていて、

普段どんな風にいるか丸わかりよ？

情けない底辺のくず肉は、

そうやってちんぽ皮に竿を出し入れしながら…

ズリズリ、コキコキ、ふふっ。

あなたのような

童貞のマゾには、

そんな伸び切った皮での皮コキが

本当にお似合いね。

ほーら、

今何を考えながら

オナニーをしているか、言ってごらんなさい？

（妖艶に）

そう、ふふっ。

私をオカズにしているの。

（復唱する感じで）

こーの、

ふふっ、

ドスケベなエロボディと

私の整った顔で、

気持ちよく

ズリズリさせていただいています——なんて。

ふふっ、

なかなかにゲスい

マゾコキ、恥ずかしいわね。

じゃーあ、

ふふっ、いいわ？

ちょっと、

遊んであげる！

（やや近づいて）

ほーら、

マズちゃんぽゴシゴシしているあなたを
見下しながら、

マゾオス乳首をカリカリしてゝ

（左・密着）

かーり

かーり

（中・近）

ねえ、恥ずかしいの？

初めて会った女の前で

全裸にされて、見下されてるのよ？

あなたは勇気を

出してバイトの面接に来たのに、

こんな風に裸んぼうにさせられて…

男のシンボルを“くず肉扱い”されて、
それでオナニーさせられて

——男として、

人として、とっても恥ずかしいわね。

そんなので快感を得る変態なんて、
最低だと思わない？

ふふっ、そう、

最低だけど気持ちいいんだ。

私のようなスケベな女に、
見抜かれてオナニーされるのは気持ちいいのね、

（叩く）

この変態——！

あーあ、ふふーん。

また頬を張ってやったら、

「ありがとうございます」なんて大きな声で、
ちんぼのゴシゴシ速度上げて
興奮してるなんて、本当にかわいい♡

ほーら、両乳首引っ張って、
このちっちゃいのに
ガチガチ勃起してるマゾ乳首。

ほら、
左右逆方向にひねって〜

うふふっ、
ねじ切ってあげようかしら。

男の乳首なんて、
ついてるだけで利用価値ないんだから、
私にくれてもいいわよね？ふふっ。

(うれしそうに)
そう、
ちぎってもいいんだ。

初めて会った女に両乳首献上して、
ふふっ、
情けないスケベな
興奮“マスコキおちんぼコキ”を
加速させて、音轟かせて、
ふふ、あなた、本当に変態ね。

ほーら、
おちんぼゴシゴシ、
おちんぼゴシゴシ、
もっとなさい？

（やや左・近）

いい？

私が発する言葉を、
一字一句頭に刻み込んで、
すべて実施しなさい？

それがあなたの存在価値なんだから。

（左・近）

ほら、じゃーあ、
ちんぼのゴシゴシ速度、
二倍にしなさい？

（左・密着 ささやき）

普段やっている
ちんぼを甘やかすような
気持ちいいだけの
ザコオナニーじゃなくて…

おちんぼのゴシゴシ速度、
限界まで上げた、
本気のチンズリオナニー

ほら！

やって見なさい？

（中・近）

でも、
射精は禁止よ。

あなたがどんなにちんぼ気持ちよくなって
射精しそうになっても、
“出すのは”

私の命令があるまで絶対禁止。

普段の二倍の速度で
チンズリゴシゴシしても
射精は禁止だから、

命令は、命をかけて、
絶対遵守しながら実行しなさい？

ほーらコキコキ、
ほーらコキコキ。

もうフル勃起で、
ちんぽを出し入れしてる
皮コキオナニーで
本気でズリズリコキして。

ああ、
ぐっちょぐっちょ

恥ずかしい本気のチンズリの音、
私に聞かれちゃってるわよ？

さっきからフル勃起で
射精寸前だったのに、
自分のおちんぽの
ゴシゴシ速度4倍に上げて、
射精寸前になってる。

（左・密着 低く）
ほら、

腰を引くな、しっかり前に突き出せ。

ちんぽ突き出して、
私にオナニーしっかり見えるようにしながら、
2倍の速度の本気オナニー頑張りなさい？

(中・中)

ん？出る？出る？

うふふ

射精なんて許すわけじゃないじゃない。

私が射精許可するまでは、

絶対に射精は禁止。

(中・密着)

ほーら、

高いピンヒールで、

あなたの足の甲を踏みつぶしながら、

(左・密着)

だからほら、

耳元でささやいてあげる。

ほーら、出すな、出すな。

鋭利なピンヒールのつま先で、

足に痛みを植え付けたら

マゾオナニーどんどん激しくなっていくわね。

(中・近)

でも、射精は禁止。

あなたたちマゾは、

自分で、

どんなに気持ちよくなろうとしても、

快樂の限界は決まっているの。

でも、

私のようなドの女が命令して、

すべての快樂を解放したときに、

本当の快樂がやってくるのよ？

我慢して、我慢して、
どんなにつらくても、
痛くても、気持ちよくても、
絶対に射精はダメよ。

私が解放してあげた瞬間の
あなたの快楽は全部、
決壊したダムのようにやってくるの。

ほーら

シコシコ、ほーらシコシコ。

でも射精は禁止。

ふふっ、

とーってもいい表情。

涙を垂らして、

それでも、ちんぽをこすりながら…

必死を腰を突き出して頑張る姿は、
なかなか哀れで汚くて、
それでいて、輝いて見えるわ。

（中・近）

ほーらいいわ。
出さない。

あなたのその情けない粗チンから、
貫い手の無いザーメン
ぶっ放して、こらんない。

私だけが

「あなた」をしっかりと見ててあげるから。

ほら、

出せ。出せ。3、2、1。

ほら、射精しろ、

この変態マゾ！

あーあ、

ふふっ。ぴゅっぴゅと。

私の体に向かって

うふふ

大量のザーメンひねり出して…

悪の女幹部を

お精子まみれにするなんて、

恐れを知らない男ね。

でも、ふふっ、

なかなかいい射精だったわ。

(やや左・近)

ほーら、顔を上げて、

私をしっかりと見なさいっふふっ。

(中・近)

(少し間を置いて、囁くように)
合格よ

……ふふっ、よく頑張ったわね。

あなた、今日から私の“もの”。

(近づく足音、ヒールの音)

私をもっと見なさい。

震えているその顔——悪くないわ。

（息を吹きかけるように）
時給は三百円。

労働時間は一日十六時間。
それがあなたの採用条件。

（間）

ねえ、どう？安いと思う？

……ふふっ、

でもその代わりに、

あなたの呼吸も鼓動も、

ぜんぶ私が管理してあげる。

（軽く笑って）

“働く”っていうのはね、

自分を削って、

誰かの快樂を作ること。

——それを、私が教えてあげる。

（やや右・中）

ようこそ、

悪の組織《マッドサイエンティスト》へ。

安心して。

壊れるその瞬間まで、

私がそばにいてあげる。

あなたの鼓動も、涙も、すべて私の所有物。

（間を置き、遠ざかりながら）

ふい

……そう、もう逃げられない。

あなたの人生、私がもらって
あ・げ・る

(やや右・中↓遠)

(遠ざかりながら、笑い声)

ふふ……ふはは……おーっほほほほーっ！…

(トラック②)

(右・中)

(カタ…カタカタ…カタ)

(マリスのヒール音、ゆっくり近づく)
ほーら、

サボってるんじゃないわよ。

さっきから手、止まってるじゃない。

悪の組織の思想を

広めるための“SNSのヤラセコメント”
一行も進んでないじゃない。

そんなので、

うちの構成員が務まると思ってるの？

パソコン叩いても、ミスばかり。

変換も誤字だらけ。

ふふっ、

まるで君の人生そのものみたいね。

元ニートのあなたが

役に立てることなんて、

荒らしコメントだけだっていうのに…

すごい作業遅い！

そんなんじゃ、

このまま“廃棄処分”にしてもいいのよ？

(右・近)

ん？なあに？私が悪いの？

(ピンヒールでデスクをコツ、コツ、と鳴らす)

(やや右・近)

ふふっ、そうねえ。

あなたのケツ穴には、

今、どぎついアナルバイブが
挿し込まれてるものね？

ほら、

動かすたびに腰がピクって跳ねてる。

(復唱する感じで)

そんなので集中できるわけない、って？
言い訳しても無駄よ。

快楽に耐えながら働くことこそ、
マッドサイエンティスト流の
労働教育なんだから。

そのうえ——ふふっ、

おちんちん、

勃起も許されない貞操帯付き。

(やや低く)

ほら、

ちよつとでも膨らませようとしただけで、
金属の輪が、ギチッ…って、
竿の根本に食い込んでる。

痛いのに、勃とうとするなんて、
ほんつとに哀れね。

腰を引いて、
その格好…

ふふっ、まるで犬ね。
へこへこ腰をくねらせて、
画面に向かって
必死にタイピング。

見てるこっちが笑えてくるわ

（右・近）

情けないねえ、
恥ずかしいねえ。

でも

——それでも働かなきゃ、
処分される。

（間を置いて、ゆっくり）
でーも。

それでも頑張るのが、
君の仕事でしょ？

（低くきょやく）

快樂と屈辱に耐えながら…
ケツを震わせ、
ちんぽを封じられたまま、
私の命令どおりに動く。
それが——ここでの“労働”なのよ。

(中・右)

(ブウウウン……バイブ音上昇)

ほーら、もっと頑張れるように、

お尻のバイブの強さ、

ひとつ上げてあげたわ。

ほら、震えながら

——しっかり謝罪しなさい？

(やや右・近 復唱する感じ)

ほら言え。

僕はクソザコ、

アナルよわよわでごめんなさい。

ケツをちよつと責められただけで、

オホッ、オホオホ言って、

勃起すらできなくなった

ザコちんぼ、硬くして、

今にもメスイキしそうです……って。

ほら、言いなさい。

(間)

……ふふっ、そう。

声、震えてるわね。

お尻、ピクピクしてるのが見えるわ。

(右・近)

お尻未経験だったくせに、

こうやって毎日、

尻穴いじめられて、

もう立派な

“マゾの穴”になっちゃったじゃない。

奥でブルブルしてるバイブが動きたび、

トロオってケツの奥から

マゾ汁が垂れてる。

ねえ、自分で分かる？
これ、快感の涙よ。

（中・近）

さあ、もう一度。
お尻いじめられて、
弱くなっちゃった変態です——
って、可愛く言ってごらんなさい？

（間）

……ふふっ。
いい子ね。

（右・近）

で？
なに？その顔。

ふふっ
……物欲しそうにしてるじゃない。
頬が赤くて、息荒くて、
そのくせ目が、
私ばかり追ってる。

羞恥で震えてるのに、
それでおちんちん、
また、ビクビクしてるじゃない。

仕事中だっていうのに、
射精のことしか考えてないんでしょう？

そんな変態くんには——ふふっ、
“教育”してあげなきゃね。

（中・近）

ほーら、私自らが、
ズボンとパンツ、脱がしてあげる…

(布の擦れる音、金具が外れる音)

……ほくら、見せない？

三日間、

尻穴をバイブでいじめられ続けて、
完全に快楽付けされた君の、
その姿。

マリス様が直々に

——検査してあげるの。

(やや右・近)

ふふっ

……あらあら、なにこれ。

おちんちん、

貞操帯でキュウキュウに締められて、
全然勃たないのに、
先っぽからは、
トロトロと我慢汁が垂れっぱなし。

パンツの中は、
びっしょびしょ。

自分のマゾ汁で、
濡れそうじゃない。

(左・近)

ほら、おケツはどう？
ほら、フリフリ、フリフリ……
電動バイブが奥で暴れて、
ヒクヒク震えてるの、止められないでしょ？

(中・近)

ふふっ……見ててあげる。
情けない尻振りダンス、

あら、あら

まるで発情したメス豚みたいね。

腰が勝手に揺れて、

快樂にあがらえない、

それでも仕事を止めないで、

必死にカタカタしてる。

(囁き)

そんな君の姿、

最高に愛らしいわ。

ほーらー、ふふっ、

でも…頭の中は

射精することばいっばいね

勤務中に、

おちんぽを射精することしか

頭がない君の態度は、

上司として見逃せないわ。

(左・密着 ささやき)

悪の幹部のDSお姉さんに、

こんな恥ずかしい表情見せたら、

いっばい責められちゃうってこと、

教えてあげる。

(左・近)

ほーら、

まずは、この情けないお尻を…

(たたく)

ほら、ほら、ほら！

ふふふーん。どうしたの？

本気のお尻叩き、

バッチンバッチンされて、

ふふっ、

もみじマークお尻につけられちゃって、

気持ちよくなっちゃった？

(さらに強くたく)

でも、

ほら、ほら、ほら。

ふふーん、

気持ちいいって言うの？

でも

こんなものじゃ、

終わらないわよ？

勃起も出来なかった

マゾおちんぽから

射精するくらい気持ちよくないと、

本当に気持ちよくなっただって、

証明ができないの。

ほら、私に叩かれて

気持ちいいんだったら、

勃起できない状態で、

痛みだけで射精してごらんなさい？

ケツにバイブ突っ込まれて、

ちんぽの勃起すら許されなくて、

情けなく見下されながら、

尻叩きだけでマゾ射精。

ほら、出せ。ほら、出せ。

痛みだけで射精しろ。

この変態底辺労働者。
だ、せつ！

あーあ、

ふふっ、出せないんだー。

痛みで

いくらいじめられても、

ふふーん、射精できないなんて、

中途半端な変態ね。

(中・中)

じゃあいいわ。

ほら、

動かないの。

あなたの拘束具、

解いてあげるから。

ほーら、

久々にちんぼとのぐ対面ようふらっ。

ここで働かされてから、

唯一のお楽しみだった

オナニーすら制限されて、

ふふっ、

勃起すらできなくなっちゃった、

くっさーい底辺ゴミクズおちんちん、

解放しちゃったわよ。

(中・中)

ふふっ……でーもね、

自分でシコるのは禁止、分かってるでしょ？

この職場に

“自由”なんて存在しないの。

(近・囁き)

もちろん勝手な射精も——禁止。

あなたの労働対価に、

射精は“存在しないの”

(ヒールで床をコツコツ鳴らしながら)
でも……もし

ふふっ、出しちゃったら——

一発で時給100円ダウン。

(やや低く)

もともと時給300円の

底辺バイト君だものね。

ちよつと射精するたびに
減っていつて……

最後には、報酬ゼロ。

残るのは、“快樂の借金”だけ。

(やや左・近)

ほーら、

ふふーん。

我慢汁ばかり

垂れてるオナ禁ちゃんぽ。

見てるだけで、滑稽ね。

そのくっさい粗チンを——

(ゆっくり息を吐きながら)

私が、人差し指と親指で……こうやって、
ゆーっくり、シーコ、シコ……。

(間)

ふふっ。

あなたが

ギリギリ我慢できる速度でね。

ほら、

亀頭の先っぽ、濡れてきた。

もうピクピクしてるじゃない。

(左・密着)

さあ、言ってごらんない。

今から言う言葉——声に出して。

(左・中 復唱させるように)

僕は底辺のゴミ労働者です。

お尻にバイブ入れられて、

おちんちんも

自由にシコシコ出来なくなつて、

何も出来ないゴミです。

——ほら、言いなさい。

(短い間)

……いい子ね。

その調子で

続けるわよ

(冷たく笑いながら)

ほら、言いなさい。

僕は童貞で、

ちんぽも小っちゃい、

底辺のゴミ男です。

でも——

女幹部のスケベな格好したお姉さんに、
シコシコされて嬉しいです。

さあ、言って。

ほら、言え。ほら、言えっ。

(短い間)

あーあ、

ふふっ……トロトロって。

自分の言葉で、責めて

おちんちんから

出ちゃったわね。

ほら見て、

“ちょろちょろ”と

恥ずかしい量のザコ精子。

たーくさん我慢してきたくせに、

その量もシヨボシヨボ。

まさに、量まで底辺。

(左・近)

ふふっ……まだ出るでしょ？

我慢しなくていい。

続けるわよ。

シコ、シコ……シコ、シコ。

はーい

痙攣マゾザコちんぽ連続射精：

どっぴゅん♡

(囁き)

……ふふっ、おちんちんから

トロトロ恥ずかしいマゾ汁追加で出ちゃってる。

恥ずかしいわね。

時給300円だったのに、

もう100円までダウン。

残りわずかの価値しかない。

（左・密着）

ねえ、どんな気分？

自分の快楽で、賃金が消えていく感覚。

ほーら、

もう我慢できないんでしょう？

じゃーあ、最後は――

本気で“コスって”あげ・る

（やや左・近）

ぎゅっ……。

この強い握力で、

根元から握り潰して、

強制射精、開始

（強い擬音）

ズリ、ズリ、

ゴシ、ゴシ

ズリ、ズリ、

（中・密着）

ああ、いい声。

腰、跳ねてる。

泣きながらイキそうな顔

―― たまらないわ。

いいの？

射精して？

出したら、

また時給が減る。

でも

分かっても、

止められないんでしょう？

(中・近)

あぁっ

……やめて、許してえ……。

おちんぽも

……時給も……消滅しちゃうっ。

そ、そんなキツイ握り方で……っ、

その強い手で根元まで握り込んで、

ズリユツ、ズリユ、ズリユツ……

ちんぽ、壊れちゃうう……っ、

消滅しちゃうってえ……っ！

(低く笑いながら)

ふふっ……いいのよ。

壊れても、潰れても、

あなたのような変態は――

蔑まれて、搾り取られて、

搾取されながら、

それでこそ気持ちよくなるの。

(やや右・近)

私とその快樂、

ちゃんと教えてあげる。

(囁き)

ほら、出しなさい？

出せ、出せ、ほら――出せっ。

(テンポを上げながら)

本気の射精よ。

さっきみたいな甘い

“漏らしイキ”じゃなくて――

本気でちんぽ突き出して。

気持ちに溜まった精子、
ぜんぶ……ドバドバ出して。

（間）

ほら、出せ。
出せ。

ほら、出せっ！

（擬音：びゅっ、びゅっ、びゅびゅびゅびゅびゅっ）

（左・近）

あーあ、

どびゅびゅびゅびゅーって……

ふふっ、

私の体に全部かけてきた。

ほら見て？

飛び散った白い精液、

あっちこっちを汚してる。

搾り取られて、

気持ちよくなって——

その快楽で落ちてく姿

……本当に、恥ずかしいわね。

（間）

ふふっ

……でも、かわいい。

必死に耐えて、

泣きながら出すその顔。

たまらなく愛おしいわ。

（やや左・近）

じゃあ——バツ、ね。

(低く)

これからあなたの時給は、ゼロ円。
支払われるのは、お金じゃなくて、
私に飼われる“快樂”だけ。

(ゆっくり囁く)

ふふ

これからも、
労働しなさい。

尻を振って、

ちんぽを握られて、
痛みに耐えながら、
奉仕を続けるの。

それが

——マリス様の部下としての義務。

(中・近)

でも、ふふっ………安心して？
ちゃんと働けたら、
ちゃんと“褒美”あげるから。

(低く優しく)

……ほら、

頭を下げて言いなさい。

「時給ゼロでも……マリス様に仕えます」って。

(囁き、微笑)

それでいいの。

私の、かわいいマゾ構成員。
ふふっ………。

これからも、私が躡けてあげる

(トラック③)

(中・中)

ふふっ……どう？

我々《マッドサイエンティスト》の科学力は。

逃げ場なんて、

もう無いわ。

(電流の唸る音、機械の作動音:ジジジジ……)
ほら見なさい。

君の体、

今、十字の拘束台に括りつけられてる。

動けば、

金属の輪が軋んで悲鳴を上げる。

まるで、

君自身が機械の一部になったみたいね。

(低く)

胸には

……“乳房拡張装置(にゅうぼうかくちようそうち)”。

電流を流しながら、ふふっ、

乳房を大きくする快樂電極。

ジリジリッ

……って音、聞こえる？

快樂の波が、

女性ホルモンを誘発してる

(やや近)

そして——尻の奥。

太いホースとプラグで

括りつけられた注入器。

中身はもちろん
“メス化ホルモン”。

ゆっくり、
ゆっくり……体の奥へ、
トロオ……つと絶え間なく注がれ続ける。

（囁き）
感じるでしょ？

ホルモンが流れ込むたびに、
背骨がゾクリと震えて、
体の輪郭が変わっていく。

（中・中）

ふふっ。
どう？

その体は。
丸みを帯びて、柔らかく、
腰が細く、肌が薄く。

まるで

……少女みたいじゃない。

ふふっ

……そうよ

君はこれから“雌”になるの。

男の尊厳も、
プライドも、社会的価値も――

全部、溶かして捨てなさい。

（やや右・近）

君は、
悪の組織にメス化させられた男。

（疑問を返すように）
ん？

「どうしてこんなことをするかって？
簡単よ。」

オスは、
労働力としては役立つけど、
メスの団員には

——もっと多くの“使い道”がある。

（低く笑う）
ハニートラップ、
資金回収、情報収集……
その体一つで、
いくらでも稼げるわ。

（やや左・近）
それと

ふふっ……私大好きなのよね

男なのに、
強制的にメス化されて、
その体を売らされる。

羞恥と屈辱で
壊れていくその表情、
とっても美しいのよ。

（間）
でも——安心して？

そんな情けない君のこと、
この私、紅蓮のマリスが、
ちゃんと見ててあげる。

最後の瞬間まで。

安心して、

メスに堕ちていきなさい？

（中・近）

ほーら、

ふふーん……。

おちんぼももう、

すっかりメス化ホルモンの影響で、

ちっちゃく、柔らかく、

“クリ”みたいになってる。

見て。

皮の中に

隠れたその小さな物が、

さらに小さくなっているわ

それなのに

——まだ、反応してるのね？

（やや左・近）

半立ちになった

“クリおちんちん”

ふふっ、

なにこれ……。

こんな恥ずかしくて粗末なもの、
もう

“男”としての価値なんてないわね。

（中・近）

ふふっ

……ほーら、見える？

君の“クリおちんちん”、

私の指でこうして——つまみ上げてあげる。

人差し指と親指で、
根元を軽く締めて……
ゴシ、ゴシ、ゴシ。

ゆっくりと、

丁寧に

クリちんぽを全部擦って…

（やや左・近）

ああ……ほら、声が出た。

「やめて、許して」なんて言いながら――

ふふっ、

喉の奥で震えるその声、
完全に“メス声”よ？

（囁き）

ほら、

君自身も気づいてるでしょ？

もう、

声の出し方すら、

男じゃなくなってる。

舌の動きも、

息の震え方も、

全部、女の子そのもの。

（中・近）

ふふっ……ほら見て。

クリ化したおちんちん、

真っ赤になって、

私の指に

トロトロの愛液をつけながら、
ピクピク震えてる。

（冷たく観察者の声で）
ああ、素晴らしい反応。
これが

“メス化ホルモン”の効果。

脳が、

痛みを快楽に、

屈辱を悦びに変換してる。

（低く囁き）

恥ずかしい顔。

とろけきったメス顔。

ほら、

その顔、しっかり見てるよ。

君がどんなふう

に“壊れていくか”、

全部、私が記憶しているの。

（間）

たとえメス化が

解けて男に戻っても――

私は忘れない。

君のこの、

堕ちきった表情。

恥ずかしい声。

壊れる寸前の喘ぎ。

ふふっ

……永遠に、私の記憶に残るの

（やや左・近）

ん？

ふふっ……どうしたの？

出したいの？

こーんな情けないクリおちんちんから、
まだ

“射精”できると思ってるの？

(冷たく)

じゃあ

——やってみなさい。

私が見てあげるから。

(左・密着 ささやき)

ほら、出せ。

クリちんぽから——

情けない“お漏らし射精”。
だ、せつ！

(中・近いじわるに)

あーあ、

ふふっ……やっぱり。

出せないんだね。

精子、

もう出なくなっちゃった。

体は気持ちよく震えてるのに、

飛ばせない。

“男”としての証が
もう残ってないね

(やや右・近)

ふふっ

……可哀想。

オスのくせに、
射精すらできないなんて。

でもね…

それが——気持ちいいんでしょ？

私に見られ、壊され、

性別すら、

私の意のままに書き換えられる。

そんな快樂、

抗えるはずないものね。

（囁き）

君はもう

“男”でも“人間”でもない。

ただの、私の奴隷よ

（中・中）

ほーら

……まだ続けるわよ。

もっと気持ちいいこと、

教えてあげる。

君が“メス”として、

すべてのプライドを捨てられるように——

紅蓮のマリスが、

次の段階へ導いてあげるの。

（低く）

これから叩く痛みは、

快樂の“確認作業”。

痛みが走るたびに、

君の心はさらに女に近づく。

ふふっ………覚悟してね。

(中・近)

ふふっ……。

女幹部である私の武器は

この——長い鞭。

(風を切る音:シユツ…)

見える？

私の身長の二倍はあるこのリーチ、

当たるだけで、

皮膚が音色を上げる。

ほーら…

いくわよ

(強く)

ほーーら

(短い間うねる)

(恍惚の声)

ふふっ、あああ……

今の音、いい響き。

痛みのはずなのに

——ほら、体が震えてる。

快樂、来たでしょ？

鞭で叩かれた瞬間、

その痛みが、

電流みたいに体の中心を駆け上って、

脳の奥で

“快樂”に変わる。

ねえ、

すごいでしょう？これが“私の”の力よ。

（右・中）

ふふっ……いいんだよ？
もっと感じて。

この長い鞭、

君の体に巻き付けるように――

ほらっ！

ほらっ！

ほ――らっ！

ああ、

今の、音速を超えた音。

鞭の先が、

頬をなで、お腹を撫で、

脚の裏まで一気に駆け抜けて。

その瞬間、

全身がビクッと跳ねる。

（低く笑いながら）

ほら、見て？

一回のムチで、

顔も、腹も、下半身も、

全部が同時に熱くなってる。

君の体、

もう痛みを

“快樂”として受け取ってるの。

（右・近）

ふふっ

……じゃあ、今度は短い鞭。

(軽く撫でる音)

長いのは違って、こっちは繊細に――

さーす、さーす

……ほら。

どこに来るかわからない、
その恐怖。

それが、

次の快楽を呼ぶの。

(中・近)

(連続で叩く)

太もも！

右、左、

今度はお腹――ふふっ。

ああゝ

体がびくびく跳ねてる。

ほら、

痛いのに、顔は蕩けてる。

そんな表情で私を見ないで？
かわいすぎるから♡

(囁き)

君の全部知ってるよ

どこを叩けば声が裏返るか、
どの角度で当てれば、
涙が一滴こぼれるか――
ぜんぶ、わかってる。

(やや右・近)

でもね？

いい子♡

口答えは、

絶対に許されない。

その従順が気持ちいいの。

服従と痛みが重なった瞬間、

ほら、

君の体、もう勝手に反応してる。

ほら、ほら、ほら——！

(連続の鞭音:パチン、パシン、ピシイン！)

(間)

ふふっ……ほら見て。

勃起できなくなったクリちんぽ、

それでもキュンキュン震えて、

ヒクヒク痙攣してる。

ねえ、かわいい。

完全に“快楽”に酔ってる。

(低く囁き)

マゾの中のマゾ……。

こんなに素直に堕ちるオス、

滅多にいないのよ？

(やや左・近)

ほーら、女だったら——

可愛く、お願いしてごらんない？

(左・密着)

もっと……いじめてください。

叩いてください。

男なんてやめて、
ぜんぶマリス様に捧げます……。
さあ、言って。

（短い間）

ふふっ、いい子。

その声、その震え……完璧ね。

（やや左・近）

じゃあ

——次は、ご褒美ね。

ふふっ、見える？

そのとんがって膨らんだ乳房に、

この鞭を

——こうやって

……ほらっ、ほらっ、ほらっ！

（擬音：パチンツ、パシツ）

（中・近）

あーあ、ふふっ……すごい反応。
のカップまで膨らんだ乳房が、
ブランブラン揺れて、
汗と涙で光ってる。

（囁き）

もだえ苦しんでる君

——とっても素敵。

力と快楽の結晶体。

私の最高の奴隷よ。

(低く)

じゃあ、

最後に

——君が一番気持ちよくなれる場所。

そこに、ご褒美をあげる。

(中・近)

ふふっ……見える？

この

——“ついているだけ”の
クリおちんちん。

もはや射精もできない、
形だけのオスの名残。

でも

——まだ、反応してる。

(やや右・近)

ほーら、震えてる。

怖いの？

それとも……待ってるの？

いい子ね。

じゃあ、

ご褒美に——思いつき叩いてあげる。

(短い間、低く)

その瞬間に、

マゾイキしてごらん？

私がしっかり見てあげるから。

(囁くようにカウント)

3……

2……

1……ほら――

(鞭の音:パチイインツ！)

(中:密着)

イッけっ！

(短い沈黙のあと、甘く囁く)

ああ……ほら。

クリちん、叩かれましたで、

オホオって――声、出ちゃったね？

腰が跳ねて、背中が反って、

全身がビクビク震えてる。

(低く子供のように)

うふふ、見て♡

おちんちんの先っぽから出てるのは、
精子じゃない。

ドロドロの、

白濁したメスイキ潮吹き。

ふふっ

……きれいに弧を描いて、飛んでる。

(やや左:近)

情けなくて、恥ずかしくて、

それでも気持ちいい。

ほら、その顔。

もう、私の虜ね

快樂に壞された君の表情
——最高ね。

（囁き）

ふふっ……そう。

それが

“紅蓮のマリス”の真骨頂よ

もう、

射精なんて概念は要らない。

君の体は痛みで、

屈辱で、

命令で——いくように造り替えられたの。

私が「イケ」と言えば、君はいく。

それが、君の“真の服従”

（やや左・近）

でも、

それでいいの。

だって君は、

痛みに抱かれて、

快樂に生かされる“雌”だから。

オスでも、

女でも、人間でもない。

ただ、

私の手の中で悦ぶ——生きた玩具。

（中・密着、優しく）

ふふっ…

安心して、堕ちていきなさい。

私がちゃんと見届けてあげる。

(低く静かに)

君は、それが気持ちいいんでしょう？

(間)

(中・近)

ふふっ……いい子。

それでいいの。

(左・密着 ささやき)

どこまでも、

私に堕ちなさい

(トラック④)

(中・中)

ふふっ

……いい格好ね。

冷たい床の上、

鉄の鎖で縛られて――。

地下の拷問室に連れてこられて、

いろんな拷問官に、

代わる代わる責められて。

ほら、

自分の姿、わかる？

みじめで、ボロ雑巾みたいに這いつくばってる。

(低く囁く)

でも

……射精は、許してもらえなかったのよね？

どれだけいじめられても、

どれだけ舐けられても、

誰も君に“解放”を与えなかった。

(中・近)

ふふっ、当然でしょ？

射精を許す権利があるのは、
この私だけ。

紅蓮のマリス。

君のご主人様であり、創造主。

私だけが、

君を“快樂”という名の地獄に導けるの。
他の誰にも、そんな資格はない。

(短い間)

ふふっ

……ほら、今も息が荒い。

私を見ただけで、
発情してるのね

(やや左・近)

ほら、撫でてあげる。

ゆっくり、

やさしく——さす、さす……。

(擬音::ヌルツ、スリユツ)

ねえ、感じるでしょ？

痛みの奥にある、

この甘い熱。

それが、

私が植え付けた“快樂の回路”。

(囁き)

どう？

気持ちいい？

（左・密着 ゆっくり読む）
“正義のスパイ君”。

ふふっ

隠しても……ムダよ。

（中・近）

だって最初から、
全部知ってたもの。

君が面接に来たとき

——あの目。

底辺の人生に疲れ切っていたのに、
どこかで光を捨てきれてなかった。

だから私は決めたの。

その光を、

私の力で塗り潰してやるって。

（やや右・近）

ふふっ

……結果は見ての通り。

労働に見せかけて、

君を調教して。

命令で射精を制御して。

痛みで喜びを覚えさせて。

壊して、育てて、仕込んで——。

ほら今、

私の声がないと呼吸もできない。

（やや左・近）

ねえ、分かってるよね？

君の“生きる喜び”

それを与えられるのは誰？

（囁き）

そう……私。

紅蓮のマリスだけ。

この私の手にかかるときだけ、

君の存在が意味を持つ。

そうやって躰けてあげたでしょ？

ふふっ

……よくできた“忠実な犬に”ね。

（左・近）

だから、

選びなさい！

正義なんて捨てて。

この“悪組織”に寝返るの。

（短い間）

これから君は

《二重スパイ》になりなさい。

表では正義の顔をして、

裏では……この紅蓮のマリスのために動くの。

（左・密着）

そうよ……。

あなたは“正義のフリ”をして、

本当は——悪の幹部の手先になるの。

(囁き)

それが、私への忠誠の証。

私の声に従うたび、

君の中の“正義”は溶けていくのよ。

(中・近)

ふふっ……

そう…

小さく頷いて…

結果はわかりきっていたわね

じゃあ、

ご褒美をあげようか。

この快樂拷問で

ヒクヒクしてるケツの穴――

ご褒美として、

私のペニスを入れてあげる。

(低く)

ふふーん……分かる？

何人もの

“正義の味方”を骨抜きにしてきた、

この腰使い。

これで君の快樂を

もっともっと育ててあげるの。

(やや左・近)

ほーら、

欲しいんですよ？

整った顔に、

悪魔みたいな笑み。

ドスケベな

パイオツ半分こぼれた衣装。

股間には、

君の粗チンなんかと比べ物にならない、
凶悪なペニバン——。

（囁き）

この姿を見て、

息が乱れてるの、分かる。

腰が勝手に動いてる。

言葉ではイヤだって言っても、
身体は

“はい”って返事してるのよ。

（中・近）

ほら、見せてあげる。

このデカイペニバンちんぽ。

お尻の穴に

——そつと、

さーすさす、擦ってあげると……

（擬音：スリュ、ヌチュツ）

ああ……ほら。

ヒクヒクしてる。

ケツ穴が、

自分から

私を迎えようとしてる。

（低く囁く）

欲しいんでしょう？

デカいちんぼで完全に屈服して、
お尻でイキたいんでしょう？

(やや左・近)

ふふっ

……情けないマゾの媚び方ね。

ザコおちんちんよりも、
この凶悪なちんぼで貫かれて、
“下の口”で絶頂したいなんて。

(囁き)

でも、いいのよ。

君のその穴

——もう完全に私のものだから。

忠誠の証、もうそこにも刻まれてる。

(中・近)

ほら、

あとは君の言葉だけ。

「マリス様の奴隷になります」って。

ほら

誓いなさい？

(少し間)

心も体も、

全部——私に服従を誓うの。

ほら、目を見て。

この

紅蓮のマリスだけを見て。

（間）

ああ……いい子。
それでこそ、私の奴隷

（やや左・近）

ほら、お尻上げて。
そう、そうやって。

自分から、

快楽を求めなさい
声を震わせて――。

（囁き）

お尻の一番深い所に
私の分身がほしいんでしょう？

奥までズボズボされて、
メスの快楽で溶かされたい。

ほら

“おちんぼくください”って
言ってごらん？

（短い間）

ああ……言えたわね。
かわいい声で、
ちゃんと懇願できた。

（中・中）

ふふっ

……これが、
かつての正義のスパイ君。
もう完全に落ちたわね。

（低く）

じゃあ——抱いてあげる。

しっかりと、悪の側に堕としてあげる」

（静かに息を吸って）

ほら……行くわよ。

ペニバン——挿入。

あーあら、

何これ。ふふっ。

こーんなにぶつとい私の、
下半身についた凶悪なもの、
ちよつと腰を突き出したら、

ズブズブーって

誘われるように

飲み込まれちゃったわよ？

（低い声）

このクソビッチの変態。

ほーら、

腰を掴んで、

へこへこ、へこへこ、へこへこ。

私がぷりっぷりの

エロいケツを振りながら、

君のケツ穴を犯してあげてるの。

ほーら、

ここがいいんでしょう？

ここが、ふふっ。

プラプラしてる

おちんちんの裏側にある、

恥ずかしい快樂オスのスポット。

ここをデカチンでこすられると、

あーあ、

オホオホ言つて、

普通の男じゃ出せないくらいの

恥ずかしいマゾ声出しながら、
気持ちいいの丸わかりだよ？

ほーら、

君のこんなところを
知っているのは

世界で私だけ。

私だけが

本当の君を知っているの。

だから快樂と気持ちよきで、
私に隷属しなさい？

ほーらほらほら。

ああ、

ケツをへこへこ、

ケツをへこへこー、ふふっ。

君のー、偽物ちんぽ

キューキュー締め付けてくる

アナルを使った、

本気のチン振りへこへこ。

ああ、

とっても気持ちよくて、
はしたないね？

ほーら、

ふふ

いいんだよ？

私がほら、

しっかり最後まで

イかせてあげるから、

君は、

今すぐにも射精したいんでしょう？

ケツを掘られて

勃起もできないちんぽから、

トロトロって、

久々のザコザーメン飛ばして

気持ちよくイキたいんでしょう？

私が手伝ってあげる。

ほら、ほら、ほら。

ケツを掘られて、

それで射精強要されて、

イキたいんでしょう？

もうマゾって、

そういうのじゃないと

イけなくなっちゃうんだからね。

ほーら、

いいわ？許可する。

今から3秒数えるからイキなさい？

ほら、

イクわよ？3、2、1。

ほら、

ケツの

一番奥にペニバンぶっこんでやって、
ほら、イっけ！

あーあ、

おちんちんからー、ふふっ、

トロトローってマゾ射精しながら、

オホ、オホー！って、

恥ずかしいイキ方しちゃったねー

ふふっ。

完全に私に落ちている奴隷君。

でも、

気持ちよかったでしょ？

(やや左・近)

大丈夫。

私だけは、

あなたに

居場所をあげるわ？ふふっ。

どんなに落ちても、

あなたは私だけのもの。

だから、

私に完全服従を誓いなさい

(トラック⑤)

(中・近)

ふふっ

……ほーら、見える？

おなか、すっかり刻まれてる。

“忠誠の刻印

”——紅蓮のマリスへの服従の証。

（やや左・近）

ほら、触ってごらん？

焼けたように熱くなってるでしょ？

その印はもう、

二度と消えない。

君が死んでも、魂の奥にまで残るの。

（囁き）

だって当然じゃない。

私に永遠の忠誠を誓ったのだから

（間）

さあ、今日は特別な夜よ。

“抱かせてあ・げ・る”

（中・近、囁く）

私が君を

“怪人”にしてあげるの。

手順は

——もう知ってるでしょ？

（やや低く）

ふふっ、そう。

私のおまんこで、

君のちーっちゃんおちんちんを——

たっぷり、

ゴシゴシ擦りつぶして、

全部、食べてあげるの。

（間）

そして、

君がびゅっぴゅって中で果てた瞬間、
私の能力で

——君の体は変わる。

肉も、心も、命も、

紅蓮のマリスの一部になる。

（右・密着）

もちろん、

二度と戻れない。

“人間”には永久に還れない

でも、

それでいいんでしょう？

体も、心も、

ゼーんぶ変えられて、

私だけに忠誠を尽くす

マゾ怪人になれるんだから。

（やや左・近）

ねえ

……わかってるよ

それが、

君の夢だったんでしょ？

支配されて、壊されて、

最後には、私と一つになること。

（中・密着、甘く）

ふふっ……いい子。

よくここまで頑張ったね。

ご褒美に——私の中で、
生まれ変わらせてあげる。

（息を吸い込み）
ほら、覚悟して。

これから君は、
紅蓮のマリスの中で溶けて、
快樂の化身になるの。

（囁き）
私が全部食べてあげる。

君の体も、
声も、魂も——全部。
ふふっ……遠慮なんて要らない。

（中・密着）
ふふっ……まずは、正面から。

（衣擦れと肌の摩擦音）
ほら

——私の、でーっかいおっぱい。
その体に、
ゆっくりこすりつけてあげる。

柔らかくて、
熱くて、息が詰まるでしょう？

（囁き）
ほーら、キス……キス……キス。

（くちづけ音）
（キスフェラ 10秒）

唇、舌、喉の奥まで、
私の支配を刻み込む。

ほーら、もっと…

(キスフェラ 10秒)

(低く)

あーあ、

ふふっ……キスしてあげたら、

ほら、君の“恥ずかしいモノ”、
私のお腹に、当たっちゃってる。

熱い。硬い。

今から

魂まで、

おまんこで

犯されるっていうのに、
興奮してるなんて

——かわいい子。

(中・近)

ほら、もっと。

ドスケベなキス、追加。

唇を押し潰して、

舌を絡ませて……ふふっ。

ねえ

しっかり、目を見て？

逃げないで。

私だけを見てればいいの。

ほら……ほら……ほら。

(キスフェラ 10秒)

（息を吸い込み、囁く）

いい子。

じゃあ

——押し倒してあげるね。

（音：身体がベッドに沈む）

（中・近）

ふふっ……ほーら。

もう、マゾ勃起。

抑えようとしても、
止まらない。

私の胸を見ただけで、脈が跳ねてる。

（やや低く）

見える？

このスケベな、

ヌレヌレのおまんこ。

今から君のおちんちん、
“食べちゃう”んだよ。

（間）

ほら、感じて？

君のおちんちんが、
おまんこの奥に

——吸い込まれていく音。

（擬音：ジユプツ、ヌチユ、ヌルウ……）

（囁き）

少しづつ、おまんこに食べられながら、
改心していくの。

悪の快楽に堕ちて、私色に染まっていく。

(中・近)

あらあら……ふふっ。

おなかの

“忠誠印”がピカツと光ってる。

もつと、

もつと私に支配されたいんだね？

そう……いい子。

(低く)

ほーら、上から。

紅蓮のマリスの、

肉食系怪物おまんこが――

君のおちんちんを、

全部、飲み込んであげる。

(擬音:ジユブ、ヌチャ、クチュツ……)

(中・密着)

ああ………入った。

入ったわね。

(囁き)

ほら、

君の小っちゃなおちんちん。

私の中で、

キューキュー締め付けられてる。

動けないでしょ？

おまんこの奥で、

完全に捕食されてるの

（低く微笑）

ふふっ……どう？

初めての“女の味”。

どう感じるの？

舌で味わうんじゃない、

全身で、吞まれる感覚を覚えて。

（やや左・近）

ねえ、童貞だったんでしょ？

世界で初めて知る、

“紅蓮のマリス”の味。

熱くて、締め付けられて、

抵抗できなくて——

それでも、気持ちよくて。

（囁き）

ねえ……泣きそうな顔してる。

それがいいの。

初めての交わりで、

泣きながら感じる君。

私に食べられて、

快樂の奴隷になる瞬間。

（中・密着）

ふふっ……

このまま私の中で、

壊れていきなさい。

そのちっちゃなおちんちん、

最後の誇りも、

ゼーんぶ私が溶かしてあげる。

(低く)

ほら、ほら、

ほら、ほら！

もう、逃げられないよ？

私の中が、君の世界。

ここが、君の“帰る場所”。

そう、気持ちいいんだ。

こーんな小っちゃい

クリミたいなおちゃんぽを

おかされて

それでおまんこ、

私の中におちんちんを入れられて、

その快樂だけで

気持ちよくなれちゃうんだ。

ほーらほらほら、

しっかり腰振ってあげる。

君が最後まで落ちられるように、

私がしっかり導いてあげるから

ん？

そうなんだ。もう出ちゃうんだ。

挿入からそんな短い時間で、ぷっ、

すべての悔いが無くなったような

満足な顔して、

それで果てちゃうんだ。

良いわ、果てなさい。

私が最後まで落としてあげる。

（中・密着）

（息を吐きながら、腰を重ねる音）

ああ

……君のすべて、

私の中に——入ってくる

（無声音 喘ぎ5秒）

（低く震える吐息）

そう……そのまま。

私も、一緒に堕ちてあげる

……絶頂で——イク……っ。

（身体のぶつかる音、熱を帯びた呼吸）

あああ

……いった……いった……。

君のすべて、

全部、私の中で受け止めた。

（微笑を含んで）

ほら、感じるでしょ……？

もう、君は私の一部になってる。

（左・密着 ゆっくりと囁き）

じゃあ

——溶かしてあげる。

君の人生、

記憶も、声も、魂も。

全部、私が受け入れてあげるの。

（軽い笑い）

それがね、いちばん気持ちいいこと。
もう何にも代えられない、
永遠の快樂。

（中・密着）

ほら……キス。

舌を重ねて、完全に落としてあげる。

（フェラ 5秒）

（囁き）

この感覚、

もう二度と戻れない。

君の中の

“人間”なんて、全部溶けて消える。

残るのは、私の色だけ。

（抱きしめる衣擦れ音）

さあ……おいで。

私だけは、君を絶対に捨てない。

世界がどうなっても、

君は私の怪人。

私の創った、最愛の存在。

（ゆっくりと息を吸い込み、静かな微笑）
ふふっ……そう、いい子。

これで——契約、完了。
紅蓮のマリスの名のもとに。

（左・密着 ささやき）

共に世界を作り替えましょう